1. 【研究の概要図】

この応募用紙に記載する研究の概要を以下の枠内に図式や分かりやすい色を用いて、概要図を作成してください。

※様式の変更・追加は不可（以下同様）

研究課題名	空間認知を応用した自己概念の行動的測定に関する研究　-文脈的行動科学の観点から-

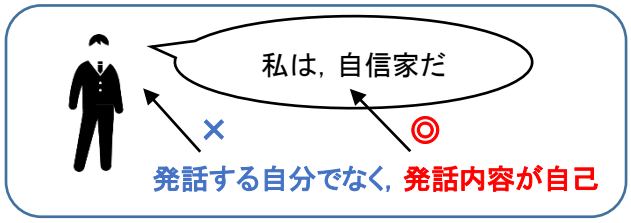
研究背景

普段私たちが使っている自己の形式

× 自己像を語る自分自身の意識（主体）

◎ 言葉で発せられた思考やイメージ（客体）

思考と自己が同化した状態



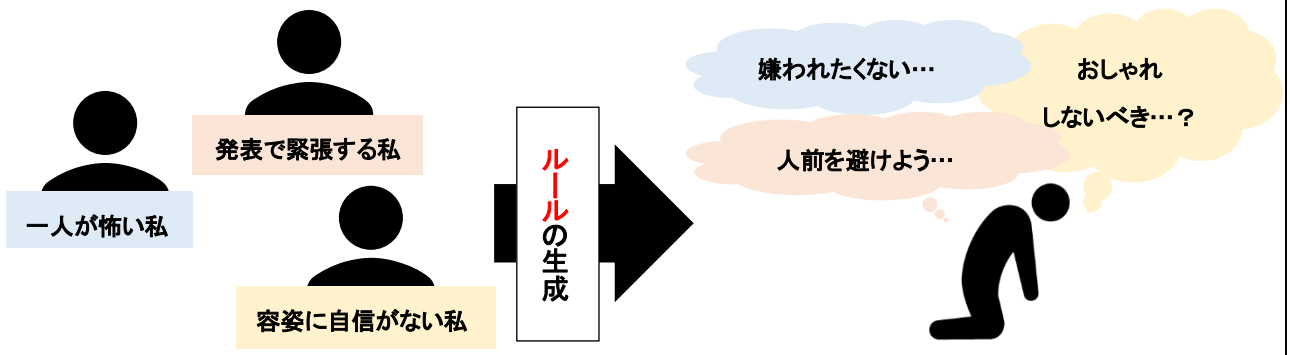
文脈的行動科学の観点では…「概念としての自己」と定義される

⚠概念としての自己の弊害

✔ 固定した自己イメージへのとらわれから他の面が捨象

✔ イルメージに沿うルールの生成により，それに沿わない行動が減少

行動レパートリーの狭小



★そこで，「文脈としての自己」という考え方へ

特徴：自己を思考や気分等の**私的事象が生起する舞台**。ないし，その舞台を**観察する視点**

➡思考と同化した自己を客観的な視点から俯瞰することで，ルール生成などの悪影響を軽減可能

⚠問題点：

・直接的に（行動的に測定できる）指標の欠如

現状では，質問紙での測定が主だが，言語行動では把握が困難

・理解のプロセスの辿りにくさ

あいまいな概念であるため，個々人の体験プロセスの追跡が困難

理解のプロセスを加味した行動的測定法の開発が急務

空間認知の援用

「文脈としての自己」のモデル

考えを客観的に記述

階層性・俯瞰的視点

の 2 点で共通？

行動的測定法に応用

空間認知のモデル

物体を多角的に把握

本研究の意義

ACT：行動的な測定方法の開発により，「文脈としての自己」の体験度の客観的な把握が可能になる

社会：空間と関連した自己概念として，「文脈としての自己」の知識としての普及を促進できる